

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

2021年 2月 22日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	小田 勇一	経営	H0601002
	②	熊谷 純子	福祉	H1401058
	③	姫野 亜紀	経営	H0201025
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	トレジャーキッズあやせ保育園			
事業所連絡先	〒	120-0005		
	所在地	東京都足立区綾瀬1-29-9		
	TEL	03-6662-6868		
事業所代表者氏名	笹谷 晴美			
契約日	2020年 8月 11日			
利用者調査票配付日(実施日)	2020年 8月 25日			
利用者調査結果報告日	2020年 10月 28日			
自己評価の調査票配付日	2020年 8月 25日			
自己評価結果報告日	2020年 10月 28日			
訪問調査日	2020年 11月 4日			
評価合議日	2020年 11月 4日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<p>・事前説明にあたっては、令和2年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。</p> <p>・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。</p> <p>・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。</p> <p>・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。</p>			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2021年 2月 9日

事業者代表者氏名

若濱 久

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【保育理念】 子ども一人ひとりの発達を保障し豊かな成長を支えます 子どもの情緒が安定し いきいきと自らを成長させることができる環境を目指します</p> <p>【大切にしていること】 園の自主性を重視した運営 一人ひとりにていねいな保育 子どもたちの自主性を育む体験</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>会社の理念に沿って、子どもの最善の利益のために自己研鑽に励む職員 子どもの気持ち・保護者の気持ち・仲間の気持ちに寄り添える職員</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>社会人としての常識を身に付け、保育内容だけにとらわれず、人権や安全衛生、メンタルケア等幅広い知識が得られるよう、情報収集をし自己研鑽に励む 子どもの成長に最も大切な時期に携わる責任の重さを感じ、職務に全うする</p>

調査対象

2020年8月1日現在の施設の利用者(保護者) 38世帯(利用者総数 42名)を対象とした。

調査方法

アンケート(自記式)。施設にて担任が保護者に手渡しする形で調査票を配付。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送または施設に設置した回収箱による回収。

利用者総数

42

利用者家族総数(世帯)

38

共通評価項目による調査対象者数

38

共通評価項目による調査の有効回答者数

30

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

78.9

## 利用者調査全体のコメント

・総合的な満足度としては、「大変満足」が 47%、「満足」が 53%となっており、満足と答えた人が 100%となっている。

●各カテゴリーのうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問9. 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか

問11. お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか

問13. あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか

問15. お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすいと思いますか (各々 100%、30人)

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか

問14. あなたやお子さんのプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか (各々 97%、29人)

## 利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	29	0	0	1
いつも楽しい活動をありがとうございます、保育士さんが皆さん優しくて穏やかに子どもに接してくれていると思う、などの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	29	1	0	0
保育園で楽しかったことは家でもやろうとするので興味関心につながっていると思います、豆腐やスイカを触ったりと食育等色々工夫して経験させてくれているので有り難いです、などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	27	3	0	0
特に意見なし。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	21	8	1	0
家では丁寧に扱えない季節行事をしてくださり子どもにとっていい経験ができています、コロナが落ち着いたらまた地域の方との交流もお願いしたいです、などの意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	27	1	0	2
お迎え時間の1時間前に間に合わない旨お伝えしても快く了承いただけて感謝しかないです、といった意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	28	2	0	0
特に意見なし。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	27	1	0	2
今年はこのような状況なので参加できるものではありません。昨年は参加しやすい日程でした、といった意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	27	3	0	0
連絡帳で相談するとすぐに返事をいただけてとても助かります、いつも園での様子を教えてもらえるのが楽しみです、などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	30	0	0	0
特に意見なし。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	28	2	0	0
特に意見なし。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	30	0	0	0
看護師先生がすぐみてくれるのでとても信頼できます。また小さなケガでも報告してくれます、といった意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	23	6	0	1
ささいなことでも帰りに教えてくれるので安心していきます、現状トラブルにあったことがない、などの意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	30	0	0	0
子どもが先生のことを大好きなので大切に対応してくれてると感じます、といった意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	29	0	0	1
特に意見なし。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	30	0	0	0
連絡帳を通して1日の内容を教えて頂いています、といった意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	28	1	0	1
不満に思ったことは未だにないですが“何でも話してね”と仰ってくださいるので対応してくれると思います、といった意見があった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	23	5	1	1
個人面談の際に教えて頂きました、といった意見があった。				

## I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	<b>保育理念などを園内に掲示し、職員間での共有・意識づけ、保護者の理解に努めている</b> 保育理念などは玄関ホールや事務室に掲示され、保護者や職員が日常的に目にし確認できるようになっている。7項目からなる職員行動規範を毎日の昼礼時に唱和し、また職員会議の際にも理念等を読み上げるなどして意識づけにつなげている。新入社員研修等では保育理念や保育の考えなどを伝え、共通理解を深めている。法人の保育の考え、保育理念、大切にしていることは法人パンフレットや入園のしおりに明示されており、入園の際に保護者に説明し、保護者会や個人面談の際などにも伝え、保育への取り組みを理解してもらえるように努めている。	
	<b>情報の共有を図り、園運営が適切に進むよう配慮し、職員の質向上に取り組んでいる</b> 職員会議で法人の園長会での報告事項や協議内容などを伝え周知し、保育に取り組む姿勢や内容などを共有して日常の保育活動に活かしている。可能な限り朝から園長が事務室にいることを心がけ、保護者とのコミュニケーションや保育活動、子どもとの対応などについての確かな助言・指導ができるよう配慮がなされている。園対応を本社目標に基づき半期ごとにターゲットプランとして整理し、個人目標の設定につなげることで全体的な活動の流れが確立されている。職員の個人面談や目標設定から評価考課までの支援にあたり、スキルアップを意識して進めている。	
	<b>会議体系を定め園運営がスムーズに進むよう努め、保護者の理解と協力を意識している</b> 職員会議、毎日の昼礼や月1回のクラス会議などの会議体系が定められ、園運営に関する情報などを伝達・共有している。法人の保育の方向性や進め方に基づき、職員配置などを決め保育がスムーズに進むよう努めている。職務権限基準に基づき職員採用などの重要な対応は手順に沿って定められた稟議を行い、法人決裁を得るスタイルとなっている。園長会にて報告される本社の決定事項などは職員会議を通じて周知され、保護者へは園内掲示などの対応を取ったり書面で配布することもあり、適宜伝えていくことで理解の促進と保育活動への協力を意識している。	

カテゴリ2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>6/6</b>
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリ-2(2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-2の講評

保育に関する保護者からの意見などを活かし工夫したり、職員の意見を取り入れている

行事後にはアンケート調査を行い、保護者からの意見や要望などを把握・収集し、行事内容の検討や開催時期の設定など次回開催に活かせるよう共有して改善点などを話し合い取り組んでいる。保護者の災害に関する意識についてアンケート調査を行い、結果を取りまとめ整理して保健だよりで伝え、災害に対する意識向上・強化に活かしている。また、子どもの自宅での食事の様子や食事への要望などについてもアンケートで把握するなどして職員間で共有し食育の工夫につなげ、保護者からの提案を保育に活かしたり、職員意見を取り入れるなどの対応もしている。

職員間で話し合い工夫し、地域特性や情報などを把握して子育て家庭支援につなげている

園長を中心に職員間で話し合い、意見などを集約し方向性を決めて取り組んでおり、合同保育などでの過ごし方の工夫に活かしている。コロナに負けるなコンクールを実施するなど、園を取り巻く状況を踏まえた取り組みを進めている。地域特性や園に求められている対応などの情報を運営委員会を通じて把握し、保幼小の連携協議会に参加して地域の子育てニーズなどの情報を共有し子育て支援に活かしている。町会に加入し地域の動きや情報などを把握して、地域の子育て家庭支援に向け「ふれあいひろば」を行い、園庭開放や子育て相談等に取り組んでいる。

中長期計画を基に事業計画を策定し、目標となる指標や項目を明示して取り組んでいる

中長期計画を取りまとめ、事業計画の策定につなげており、保育サービス、保護者対応、地域との交流・社会貢献などの取り組みが定められている。保育内容、環境設備(施設の充実)、保健・安全計画、給食・食育計画などを明示して、事業計画への展開が図られている。事業計画には、目標とする指標や項目などが示され、年度末の総括を経て次年度の展開に具体的に引き継がれている。保育や行事、保育活動への反省・評価、振り返りがなされており、職員からの提案や保護者の意見・要望などを活かして保育の新たな展開や取り組みが実践へとつながっている。

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況 **5/5**

評価項目1  
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2  
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

**行動規則を共有し人権擁護など倫理に対する意識を高め、保育の質向上に活かしている**  
 昼礼時に職員行動規則を唱和し、入社時に個人情報保護・コンプライアンス・法人理念などについて共通理解できるよう取り組んでいる。また、人権擁護・虐待防止に関しては園内での研修のほか区の研修にも職員が参加している。全国保育士会の人権擁護チェックシートや虐待チェックリストを用い、定められた項目を確認して職員の理解と意識を高め、子どもに対する接し方を改善し保育の質の向上につなげている。子どもへの人権侵害や虐待などを発見した際には、本社や児童相談所などとの連携の手順が確立されており、必要な時に適切な対応ができる。

**苦情処理への対応体制を整え、意見や要望などを活かして保育活動に取り組んでいる**  
 意見箱を設置し保護者からの意見・要望・苦情を広く集められるよう配慮しており、玄関には苦情の相談先等の情報が掲示されている。意見・要望は職員間で共有して方針を話し合い対応を進め、苦情受付窓口への事案についても記録書を残すことになっている。苦情対応は園長を中心に行っており、意見などをそのまま受け入れるだけでなく、その都度適切な対応を検討し配慮につなげている。寄せられる意見や苦情などは貴重な提案として受け入れ保育活動に活かすことを考えており、様々な要望などに対応しながら、さらによりよい保育に向け取り組んでいる。

**イベント開催や専門性を活かした活動など、地域の人たちと交流する機会を作っている**  
 コロナ禍の中、計画通りの開催は難しいが規模を縮小して園を地域に開放する「ふれあいひろば」を行い、地域の方々に園の保育を体験してもらっている。専門性を活かし保育主任と看護師による育児相談等を受付けるなど、子育て家庭支援にも努めている。昨年までハロウィンの際に園児が地域に出て楽しんだり、科学ボランティアが来園し園児と活動してよい刺激となり活動を広げる機会ともなっていた。今後も中学生の職業体験や実習生の受け入れも考えており、園と地域の関わりがさらに深まることで地域の人にとって園にとってもよい成果が期待できる。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>子どもたちの安心安全を確保し、具体的な対応や備えなどで防災への意識を高めている</p> <p>子どもたちの安心安全の確保に向け、感染症予防マニュアルや避難訓練計画書、事業継続計画(BCP)等が整えられ、災害時における職員対応を定め、防災に関する研修を行っている。掲示板やメールで感染症の流行状況や災害時の登園の目安について保護者に向けて情報発信するなど、園の保健・安全に関する対応を伝えている。災害に対する理解を深め備えをしていく姿勢が共有し、防災食の対応や炊き出しの手順、帰宅の優先順などを決めている。このような具体的な活動は災害を身近なものとして考えるきっかけにもなり、防災に対する意識を高めている。</p> <p>ヒヤリハットなどの情報を活かし事故抑制・対応を検討、ケガや事故防止につなげている</p> <p>危険予知トレーニングやヒヤリハットの情報を通して子どもたちのケガや事故を未然に防止することに努めている。ヒヤリハット報告書のフォームには発生状況の報告のほか、なぜヒヤリが起こったのかや今後の抑止対応をどうするかも記入するよう配慮されており、再発防止に向けた姿勢を重視している。職員会議でもヒヤリハットの振り返りを行っており、気づきを活かして園全体で事故の防止を心がけている。ヒヤリハットの事例をできるだけ多く集めることで大きな事故の防止につながるよう、職員間の意識向上を目指した取り組みを積極的に展開している。</p> <p>情報管理に関するマニュアルや規定を定め、職員研修を行い理解と共有に努めている</p> <p>園内の各種情報に関する管理のしくみが整えられ、個人情報保護基本マニュアルに基づき個人情報の管理を徹底している。児童票などの機密性の高い情報は事務室の書庫で保管し、職員がだれでも閲覧できるようにする一方で職種に応じてアクセス権限を設定して情報を管理している。早朝や夜間の書庫の施錠についてもルールを定めており、データを保存したSDカードなどは園外には持ち出さないなどの規則もあり電子データの管理も厳重に行っている。情報管理に関する職員研修を実施、保護者には個人情報の取り扱いについて説明し理解と共有に努めている。</p>		

カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇〇〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇〇〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況 **3/3**

評価項目1  
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に  
取り組んでいる 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

**法人と保育園が協力しよい人材確保に向け対応しており、園からの希望も伝えている**  
 法人本社が中心となり策定した人材計画に基づき、園長が就職フェアに出かけたりして、よい人材を確保するため職員の募集に法人と保育園が協力して対応している。職員の母校を訪問して保育士課程の学生に情報を提供したり、保育士紹介キャンペーンの制度では知り合いの保育士を紹介してもらい就業が実現した場合は謝金を支給するこの制度を通じて採用された職員もいる。採用に関しては法人が中心となって対応しているが採用面接には園長が参加するなど、技能・経験・資格などの園からの希望を伝えて適材適所となる職員配置に努めている。

**キャリアパスと人材計画を基に個別の計画を作り、目標設定や研修の見直しを行っている**  
 法人でキャリアパスの体系と人材計画が取りまとめられ、職員の職務責任や必要なスキルなどが整理されている。キャリアパスや人材計画を基に、保育園の目標を踏まえて個人別のターゲットプラン、人事考課シート、個別の研修計画シートが作られ、各職員の育成につながっている。チームビルディングで園目標をマンダラチャートとして表現し、職員間で共有・共通認識化して保育活動に活用している。ターゲットプランの進捗を確認し個別面談で意向などを把握、目標設定や研修内容の見直しを行い、良いところ探しなどで目標設定の場を設けるなど工夫している。

**各種研修機会を提供し、研修成果を共有して心身共のやる気などの向上に取り組んでいる**  
 園内研修も含め保育・保健衛生などの研修の機会が全職員に提供され、希望に応じて参加ができ、リモート研修には全員が参加している。研修後は報告書を作成、職員に向け報告する場を設け、研修成果を園全体で共有できるよう配慮している。ストレスチェックや出勤時の健康チェックなどで職員の心身共の状況を確認し、やる気と働きがいの向上につながる対応を進めている。保育業務のICT化への対応や新任職員の育成につながるチューター制度の導入、継続して働き続けるための対応など、保育士のモチベーション向上に向けた取り組みが検討されている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

○リスクマネジメントへの意識を高め、戸外活動や保育室内での危険予知トレーニング、午睡時の危険性、感染症予防、感染症拡大予防について職員の共通理解を深める。  
 ・大切な命を預かるうえで子どもたちの重大なリスクマネジメントについて職員指導の徹底を行う

<取り組み>

・日常における危険予知トレーニングを行い事故防止につなげたり、ヒヤリハットの見直しをして職員間で情報の共有と改善点について話し合う  
 感染症対応については、これから流行するであろう感染症について知る研修を行い、予防の仕方や嘔吐処理の仕方など、発生時の対応についても共通理解を深めるようにする。

目標の設定と  
取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

<振り返り・検証>

・危険予知トレーニングの研修をもとに、園内のヒヤリハットをあげることで事故を未然に防いでいくという意識付けにつながった  
 ・多くの職員が事故ゼロを自己目標に保育をするようになった結果、大きな怪我の発生を防げた

<今後の方向性>

・保育活動に伴うリスクとどう向き合うか、遊びの中では沢山の学びがある中で危ないから経験させられないのではなく、どのようにしたら危険を回避できるかを考え、保育の工夫をしていく

評価項目2  
 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

○\* 保育の質の向上を目指して、子どもたちが主体的に遊べる環境づくりと区の掲げる保育の質ガイドラインに沿って個々の取り組みの工夫をしていく。  
 ・認可園として、区の保育の質ガイドラインの内容に沿って保育をしていく

<取り組み>  
 ・区のガイドラインを職員間で読み合わせしたり、虐待・人権についての研修またチェックシートの実施で共通理解を深める

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

<振り返り・検証>  
 ・ガイドラインや研修の中で職員間の共通理解が深まり、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添った保育の実現ができた

<今後の方向性>  
 ・保育の質のガイドラインは引き続き活用していく  
 ・保育の質の向上にかんしては、職員のスキルアップや職員間の関係性が大きく関わってくるため、職員間のコミュニケーションを深める機会を多く持てるように進めていきたい

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	
	評価 <span style="float: right;">標準項目</span> 評点(〇〇〇〇)	
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <span style="float: right;">○非該当</span>
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>ホームページや園のしおりで基本情報や保育の特色など詳細な情報を提供している</p> <p>本社のホームページから基本情報の他、系列園共通の保育理念や保育の取り組み、保育園の一日、給食カレンダー、入園時のよくある質問など紹介されている。「園の自主性を重視した運営」「一人ひとりにていねいな保育」「子どもたちの自主性を育む体験」など特色が紹介され必要な情報が得られるようになっている。また、園のHPでは園長や職員のメッセージ、園概要、保育目標、アクセスマップの他「ここにこブログ」では各クラスが月に2～3回、季節ごとの保育園の行事の取り組みや、日常の子どもたちの生活や遊びの様子を掲載している。</p> <p>区の各種媒体を通じて、園の基本情報や保育園選びのポイントなど情報提供をしている</p> <p>行政のホームページでは入園申し込みの流れや保育園の種類、よくわかる!「保育施設・幼稚園選び」など情報の提供の他、園一覧には所在地、電話番号、0歳児保育や延長保育の有無など基本情報が掲載されている。保育園コンシェルジュは区の窓口や子育てサロンに出張し、施設選びの参考になる資料「保育施設の紹介」(閲覧用)を用意し、保育施設の案内や相談にのるなど利用希望者に対応している。園の情報が伝わるようコンシェルジュに資料提供を行い連携を図っている。</p> <p>見学は希望者の都合に応じて対応し、保育の特色や園が大切にしている事を伝えている。</p> <p>見学は希望の日程で個別な対応を基本としているが、コロナ渦の中で感染症対策のため平日は玄関で対応している。見学者用に作成したパンフレット「一人ひとりにていねいな保育」に園庭・園内の様子や保育の様子を写真で紹介し、体験を通して育まれる感性を大切にする園の保育の特色を掲載している。入園にあたって心配なことなどの質問に応え、行事の取り組み、木育など保育の取り組みや入園後に必要な持ち物などを園長が説明し安心して入園できるようにしている。月に1回、土曜日に見学会を開催し園内資料を使って案内できるようにしている。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園時に個人面談を実施し園の基本的なルールや重要事項を説明し、同意を得ている</p> <p>入園面接で使用する入園のしおりや児童票、入園前健診のお知らせ、入園説明会・面談のお知らせなどの書類を事前に送付し、面接日に提出が必要な物、後日提出するもの、家庭での保管など保護者に分かりやすく案内している。園長が「園のしおり」「重要事項説明書」に沿って園の基本ルールを説明後、保護者に同意書に署名・捺印し提出してもらっている。新入園児個人面談シートにて入園までの状況や既往歴、「おこさまとのふれあいで大切にしていること」「保育園に対して求めること」など、保護者の意向や要望を受け止めて記載している。</p> <p>面談で確認された子ども一人ひとりの情報はファイルし、全体会議で共有している</p> <p>面談時に保護者が提出する児童票や入園予定児健診結果表、緊急連絡カード、アレルギー調査書、個人情報保護の方針及び取り扱いに関する同意書など個人別にファイルしている。面談シートをもとに家庭での成育歴や基本的な生活習慣、既往歴、アレルギーの有無など、クラスミーティングに非常勤職員も参加し子ども一人ひとりの情報を共有し把握している。面談時に確認された保護者の意向や要望は、全体会議の中で職員間で共有し子どもへの対応、配慮など確認されている。さらに離乳食や食物アレルギーについては、栄養士が詳細な聞き取りを行っている。</p> <p>保護者の意向を確認し慣れ保育を実施し、無理なく園生活に慣れるようにしている。</p> <p>入園直後には、保護者の意向や就労状況に配慮しながら概ね1週間程度の慣れ保育を実施し、徐々に保育時間を延ばし子どもの負担軽減を図っている。特に0歳児は特定の保育士が関わり愛着関係の芽生えや、家庭での生活を受け止め個別対応している。1歳児からも慣れ保育期間は子どもが安定できるようにできるだけ特定の職員が関わり、お迎え時には子どもの様子を具体的に伝えて、保護者が安心できるようにしている。また、転園や退園時にはクラス毎にお別れ会を持ち、手作りのプレゼントや色紙を贈り、園の行事に招くなど継続した支援につなげている。</p>		

サブカテゴリー3

3 個別状況に応じた支援方針作成・記録

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

12/12

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p><b>子どもの発達の様子、保護者の要望などは児童票に記録し把握している</b>  面談で確認された家庭状況や成育歴、健康面、園に対する要望など「新入園児面談シート」や児童票に記録し把握している。日々の子どもの様子は日誌に記録し0～2歳児は毎月、3～5歳児は期毎に「発達経過記録」にまとめ、子どもの発達の推移を記録・把握できるようにしている。保護者には0～2歳児は連絡帳で、3～5歳児はマチコミメールを活用し「一日の様子」を配信して伝えている。保護者会や個人面談を通して保護者の要望や意向を把握・記録し、保護者の申し出にはその都度、個々の状況に合わせて機会を設けて対応している。</p> <p><b>子どもの状況に合わせて計画を作成し、保育の振り返りを行い次月につなげている</b>  「保育の内容に関する全体的な計画」を踏まえて0歳児は三つの視点、満1歳以上は5領域で区分し、養護と教育の観点でねらいを持ち、年間指導計画・月案・週案の他、2歳児までは個別指導計画を作成している。環境構成と配慮点、食育や異年齢活動など活動内容や保育士の援助、配慮などの評価の観点を明確にし、毎月クラス毎に振り返りを行うと共に期毎に計画が子どもの姿に合ったものになっているか確認を行っている。区の「保育振り返りシート」を職員に配付し年4回の保育実践の振り返りを行い、個々の職員の気づきや課題を明確にしている。</p> <p><b>職員会議や毎日の昼礼で職員間で情報共有し、記録に残し周知徹底を図っている</b>  毎月の職員会議では、連絡事項のほか、保健・給食や食育活動、クラス会議での振り返りから子どもへの個別配慮や行事の取り組み、保育環境やヒヤリハットなど話し合わせ職員間で共有されている。日々子どもや保護者の状況、職員体制など毎日の昼礼で共有事項を伝え、午後の保育体制や配慮事項を確認し合い、申し送り表に記録し伝達漏れがないようにしている。毎朝の受け入れ時の健康観察はクラス内で情報共有されるほか、園長が1日2回各クラスを巡回し子どもの状況を把握し適宜アドバイスをを行い安定したクラス運営ができるようにしている。</p>		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<b>保護者の同意を得て、子どものプライバシー保護や羞恥心への配慮に努めている</b> 個人情報の取り扱いについて「重要事項説明書」に明示し、入園時に内容を確認し保護者の同意を得ている。プライバシー保護について区のガイドラインに沿って対応し、HPや会社のパンフレット等への写真掲載に関する同意も確認している。子どもの羞恥心に関しては、乳児のおむつ交換は必ずトイレの所定の場所で行うことを徹底している。水遊び時の着替えなど必要に応じて衝立を設置し、上を脱いだら上を着るなど上下別々に着替えるように声をかけ、年齢発達に合った対応を心がけ羞恥心の芽生えに配慮している。		
<b>子ども一人ひとりの気持ちや思いに寄り添い、尊重した関わりを心がけている</b> 子ども一人ひとりの気持ちや思いをくみ取り、0歳児は担当制保育に取り組み特定の保育者が応答的に関わっている。子どもにとって安心して過ごせる「第二の家庭」となることを園の理念としている。職員行動規則を事務室に掲示し「丁寧な言葉遣い」「大きな声を出さない」「子どもの名前を呼び捨てにしない」など掲げ、関わりについて職員間で日常的に確認している。活動に参加したくない時にみんなと一緒にやることを課題とせず、子どもの思いを受け止めた対応をしている。利用者調査でも「子どもの気持ちを大切にしながら対応」に100%を得ている。		
<b>それぞれの家庭状況や背景を受け止め、支援に向け、研修を通して意識共有に努めている</b> 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した関わりができるように、共通語が日本語でない場合に、通訳カードでコミュニケーションが取れるように工夫し保護者の話をよく聞き、意向や家庭状況を理解し受け止めている。虐待防止、人権擁護についての園内研修や外部研修を実施している。人権擁護チェックシートを活用し保育の振り返りを行い、職員間の共通理解のもとに言葉かけの工夫、子どもへの接し方について反省改善がされている。虐待の疑いが生じた場合には本社の「虐待防止対応マニュアル」に基づき関係機関と連携を図る仕組みがある。		

サブカテゴリ6	
6	事業所業務の標準化
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
サブカテゴリ6の講評	
<b>園内マニュアルやチェックシートで業務手順を明確にし、常に確認できるようにしている</b> 業務内容等サービス提供について各種園内マニュアルが整備され、職員が同じ手順で業務を行えるようにしている。マニュアルは職員が必要な時に確認できるように事務室に常置している。今年度散歩経路の見直しを行い、安全性を配慮した散歩ルートを明記した散歩マップを作成している。公園の特徴や、注意事項などを入れた散歩マップを廊下に掲示し、子どもたちの散歩コースを保護者にも伝えている。園内マニュアルのチェックシートを活用し項目が完了しているか確認できるようにし、また、マニュアルについては年度当初に全職員で確認をしている。	
<b>決められた手順で業務が行われているか定期的に振り返り、適宜見直しを実施している</b> 職員が決められた手順に準じて業務を行っているのか振り返り、手順が合理的でない場合その都度、職員の意見を集約し現場に最適なものとなるように見直しをしている。園内マニュアルについても職員の理解促進を踏まえてなぜこうするのか理由付けについても注釈を入れるなど工夫をして作成していきたいと園長は考えている。コロナ渦での新しい生活様式に対応した衛生管理についても、早朝保育から、延長保育まで時系列に環境整備が行えるよう手順書で方法を明確にし、職員が連携して業務の遂行ができるようにしている。	
<b>保護者や職員の意見・提案を活かした改善が行われている</b> 今年度、園では登降園の際に感染対策として、保護者対応を玄関で行っているが、保育室に入れない保護者から「園での子どもの様子を知りたい」「遊んでいる様子を知りたい」など要望が寄せられた。幼児クラスの活動の様子をマチコミメールを活用し「一日の様子」として発信することや、各クラス毎月1回「ドキュメンテーション」の作成、ホームページで「にこにこブログ」を各クラスが月に2回は配信し「保育の可視化に」取り組み、園生活の様子を配信し、保護者の要望に応えている。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35 / 35
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>一人ひとりの発達に応じた援助と遊びの環境を大事にした取り組みに努めている</p> <p>登降園時の保護者との会話や連絡帳で家庭での様子を把握し、24時間サイクルの中で子ども一人ひとりの姿を把握し保育を行っている。今年度、休園期間中に職員は「足立区の保育の質ガイドライン」を熟読し保育を振り返り、保育の在り方を見つめなおす機会を設けている。子どもの発達や興味・関心を捉えた遊びの環境作りに取り組み、職員がそれぞれにままごとキッチン台や、人形の洋服、ボタンやチャックを使ったランチバックや電車つなぎなど手作りの玩具を制作し、自発的に活動できる、各保育室の遊びの環境を充実させる工夫をしている。</p> <p>様々な経験を通して、一人ひとりが満たされ成長できるように保育士が関わっている</p> <p>保育室や戸外など様々な活動を通して、子ども自身が興味・関心を持ち、子どもが主体の遊びにつなげていけるように子どもの活動を見守り、必要な玩具や素材、環境構成ができるようにしている。夏まつり後に2歳児と4歳児が一緒にお店屋さんごっこを楽しんだり、1歳児・3歳児と一緒に遊ぶなど異年齢で一緒に遊ぶことを喜んだり、興味を持ち模倣したりする子どもの姿が見られた。子どもの気持ちを大事にしなが保育者が見守り、できることやできないことが一人ひとり違うことに気付けるように援助し、互いに尊重する心が育まれるようにしている。</p> <p>子ども一人ひとりの発達状況に合わせて、気持ちに寄り添った園上に努めている</p> <p>特別な配慮が必要な子どもに対しては、クラス会議の中で話し合い、他の子どもと生活する中で、互いに成長できる援助ができるようにしている。区の地域担当臨床心理士による巡回相談で、保育士の関り方など相談する仕組みがある。発達の過程で生じる子ども同士のトラブルについて、子どもの気持ちを汲み取り、保育士が環境設定や言葉かけの工夫をしている。就学に向けては年長児担任が幼保小連携ブロック会議に出席し情報を共有し、年長児が近隣園との交流や小学校体験などを通して、就学への期待が持てるようにしている。今年度は年長児の在籍はない。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>受け入れ時に子どもの様子を丁寧に聞き、申し送り表に記載し職員間で連携している</p> <p>登園時に玄関で、健康面や子どもの様子について保護者から聞き取り、健康観察を行い申し送り表に記載している。全園児体温を測り、その日の様子を保護者に口頭で確認して受け入れをしている。子どもの様子を早朝保育担当職員から各担任に引継ぎ、職員間で共有し日中の保育につなげている。保護者から受けた伝達や質問事項など、連絡帳や口頭で対応している。食事やおやつの喫食状況、睡眠時間、健康状態などの子どもの様子は申し送り表で引継ぎ、園長や看護師もサポートに入り、お迎え時に玄関で対応しその日のエピソードを口頭で伝え共有している。</p> <p>一人ひとりの発達や意欲を把握しながら生活習慣が身につくように個別配慮をしている</p> <p>基本的な生活習慣の自立に向けて、個々の成長発達に合わせて無理のないよう個別指導計画を作成し、身の回りの簡単なことをしようとする気持ちが芽生えた頃に食事・排せつ・着脱など、保護者の意向を確認しながら進めている。0歳児は担当制保育を実践し食事・睡眠・排せつなど特定の保育士が関わり、子どもとの愛着関係を深めている。同様に1・2歳児も個別な関わりを大事にし、応答的な関わりの中で子どもの意欲を大事にし、食具を使って食べることや、排せつや着替え、手洗いなど生活の中で身につくように家庭と連携しながら進めている。</p> <p>安心できる環境を整え、子どもの状況に応じた休息・睡眠ができるようにしている</p> <p>その日の体調や子どもの状況に応じて一定の時間安心して眠れるように環境を整えている。0歳児は室内を区切り、個々のリズムに合わせて午前寝や夕寝をするなど機嫌よく園生活が送れるようにしている。家庭での状況を把握し園と家庭との連続性を考慮した配慮を行っている。年長児は就学に向けて午睡時間を徐々に減らし、小学校への接続を視野に午睡を無くしているが状況を見ながら適宜、休息が取れるようにしている。睡眠チェック表に0歳児5分毎、1歳児10分毎、2歳児15分毎、3・4歳児20分毎に顔色、呼吸、体勢を確認し記録している。</p>		

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子どもが遊ぶ玩具を選び、遊びが豊かになるよう環境構成の工夫に努めている

子どもの発達や興味・関心に合わせた環境構成に、園に必要なものを職員間で考え、子どもたちのためにできることを共有し休園中に職員が手作り玩具に取り組んでいる。ままごとキッチン台や指先を使う遊び、ごっこ遊びを楽しむ玩具など作り、可動式の低い衝立で遊びの空間を分け落ち着いて遊べるようにしている。廊下のニッチは季節感のある自然物や人形が置かれ、ぐずっていても気分転換できる空間になっている。玩具は乳幼児とも子どもが手に取って遊びやすいように分類し、車は車庫に入れるなど遊びの延長で片付けができるように工夫されている。

様々な体験の中で、子どもがことばや表現活動を楽しめるようにしている

乳幼児期の言葉の発達が目覚ましい時期に、保育士が丁寧な言葉を使い子どもに否定語ではなく肯定的な言い方で伝えることが職員間で共有されている。保育室には興味や季節に応じた絵本が設定され、絵本の読み聞かせなど心地よいリズムで言葉に対する感覚を育てられている。3歳～5歳児は当番活動でみんなの前で挨拶をしたり発表する、人の話を聞く機会が意図的に持たれている。木育やいろいろな素材に触れる制作活動やわらべ歌、リトミックなどを通して音、形、色、手触り、動きを感じて自分のイメージで表現する楽しさを味わえるようにしている。

目的によって行き先を選択し、戸外活動では季節に応じた体験ができるようにしている

園庭には今年度から廃タイヤが置かれ、重いタイヤを運んだり転がしたり中に入ったり子どもたちの遊びがダイナミックになっている。散歩マップには、目的地まで安全を重視した経路が明確に記され、公園ごとに「木々に囲まれた公園」「川が流れている四季折々の自然と触れ合うことのできる公園」「未満児向けの公園」など特徴や注意することもコメントされている。季節の変化を感じたり固定遊具での遊びなど、年齢や天候、目的に合わせて行き先を選択して散歩に出かけている。生活や遊びを通して安全に遊ぶルールを一緒に考える機会を持っている。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>日々の遊びの延長で行事に取り組み、子どもたちが無理なく楽しめるようにしている</p> <p>子ども達の園生活が豊かなものになるように、日常の生活の延長として行事に取り組んでいる。開園2年目になり、更に子どもの興味を捉えた無理のない行事に取り組めるようにしている。特に感染対策のため保護者参加の行事の開催は難しく、運動会は規模を小さくミニ運動会として、保育園で2クラス毎にプログラムを組んで実施している。保護者の参加がないので、今年度は動画を撮影し、2月の保護者会で上映を予定している。新しい生活様式での工夫をしながら、安全に楽しめるよう配慮や実施に向けての内容や方法の検討を重ねている。</p> <p>日常の遊びの中から子どもが興味を持って取り組めるようにしている</p> <p>誕生会は友だちと一緒に祝いし、担当者が季節感のあるものや身近な物語をエプロンシアターやスケッチブックシアターなどで楽しめるようにしている。今年度は夏まつりも、子どもたちだけで3歳児・4歳児を中心にお店やゲームなど楽しめるように援助している。制作活動で毛糸を染めた焼きそばや、たこ焼きなど子どもたちと作り、ゲームはモグラたたきや的あてなど楽しみ異年齢での交流を深めている。昨年度、保護者からの要望で実施した敬老の日の集いは「ファミリーデー」として、父母・祖父母に子どもの写真入りのレイのプレゼントに変更している。</p> <p>保護者の行事への参加を控え、行事の様子動画を2月の保護者会で上映し共有していく</p> <p>運動会は子どもの発達を捉えた、日常の運動遊びやリトミックなどを構成し、0歳児から楽しめる触れ合い遊びや体操サーキット、パラバルーンなどプログラムを工夫し実施している。運動会の動画を保護者会で上映し、子どもの成長の様子を共有していく予定にしている。昨年度は行事毎に、アンケートをとり次年度に向けた意見・要望など保護者からの意見を集約しまとめたものを掲示し、検討が必要なことは職員間で共有し次年度に向けて検討している。今年度は行事毎に状況を把握し、検討しながら進めて行くことにしている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間の保育の中で、子どもが安全な環境で安定して過ごせるよう配慮している</p> <p>子どもがそれぞれのペースで落ち着いて過ごせるように遊びの環境を配慮し、0・1歳児は負担がかからないように合同になる時間帯を考慮している。パーティーで仕切り、好きな遊びを選んで、保育者に見守られゆったりとした時間を過ごせるように職員が連携し取り組んでいる。合同保育の中で、年上児の遊びを年下児が真似をしたり、遊びの興味を広げ一緒に遊んだりする様子を職員が見守り援助している。18時30分以降の延長保育は補食・夕食を提供し、絵本を読んだりスキンシップを図りお迎えまでの時間を安定して過ごせるようにしている。</p> <p>合同保育を園内研修で振り返り、職員間で子どもが楽しく過ごせるよう検討を重ねている</p> <p>長時間保育について各クラスの月の指導計画の中で、安定して過ごすことや、異年齢児や保育者の関わりなど配慮や環境構成など立案されている。園内研修でも合同保育の中でのケガを取り上げ、ケガの起きる理由や工夫すべき点を職員間で話し合い共有されている。子どもの人数や状況を把握し、担当者が手袋シアター、エプロンシアターなど子どもが落ち着いて過ごせるよう取り組まれている。登降園の出入りの際に子どもが落ち着かない場面があるなど職員の意見があり、日々の保育を振り返り職員間で課題を出し、改善策を見出し実践につなげて欲しい。</p>		
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>旬の食材を用いたメニューで様々な味覚を体験し、食事を楽しめるようにしている</p> <p>玄関を入り廊下を曲がると大きな窓越しに調理の様子が見え、子どもたちが散歩から戻ると給食のいい匂いがして、調理の様子を見ることが出来る。毎月19日は郷土料理の給食で24節季を活用した食文化を伝え、献立は2週サイクルのメニューで旬の食材を中心とした献立になっている。食事の時間は家庭と同じように決まった席で楽しく食事ができるようにし、職員は食具の使い方や食事の姿勢など年齢に応じた食習慣が身につくよう声かけをしている。管理栄養士、調理師が子どもの喫食状況を把握し保育士と意見交換し、次の給食の提供時に活かしている。</p> <p>食物アレルギーや離乳食など、一人ひとりに応じた安全な食事提供に努めている</p> <p>入園時に食物アレルギーがある場合は、アレルギー調査書、医師の診断書(生活管理指導票)検査結果コピーをもとに、保護者と栄養士、担任で面談し、個々の状況などに応じた給食を提供している。食物アレルギーの食事の提供は「食物アレルギーマニュアル」に則り、受け入れ対応の手順、誤食防止の手順に沿って複数の職員でチェックし安全な食事提供に努めている。離乳食も同様に一人ひとりの発達に応じて前期から完了まで保護者と連携しながら進めている。初めての食材は家庭で1回以上食べてから園の給食で提供する仕組みになっている。</p> <p>身近な食材に触れたり、栽培・調理などの体験を行い食への関心を高めている</p> <p>区のガイドラインの食育「一口目は野菜から」を推進し給食での取り組みをしている。4・5月の休園後、年間食育計画を変更し、子ども同士が同じ食材に触れないように配慮し、寒天に触れる、さつま芋を洗う、トウモロコシの皮むき、野菜スタンプ、人参・カブの種蒔きなどできる範囲で行っている。食育の様子は写真掲示やホームページ「にこにこブログ」で保護者に伝えている。給食アンケートで保護者の給食への意見・要望を聞き、給食だよりで区の食育の取り組みや行事食のメニューを紹介し、保護者会でおやつを試食会など様々な食育に取り組んでいる。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>ケガや病気の予防に関心が持てるように、日常の保育の中で具体的に伝えている</p> <p>年間保健計画では健康教育の他、保健活動、家庭との関わり、職員との連携など月毎に立案されている。健康教育では子ども自身がケガや感染症の予防ができるよう、安全指導や手洗いうがい、鼻水や咳の対処法も伝えている。日々の戸外活動においても、散歩ルートや危険個所の見直しを行い、年齢発達に合った目的地選び、年齢に合わせて遊ぶ前に約束や注意事項を伝え、安全に遊べるようにしている。健康診断や歯磨き指導を通して、子どもが自分の体に興味を持って、健康や安全に関心が持てるように日常生活の中で伝えている。</p> <p>新しい生活様式に対応し職員の意識を高め、安心できる環境整備に努めている</p> <p>登園時に保育者が子どもの健康観察を行い、家庭での体調に変化がないか保護者から聞き取り、申し送り表に記載して職員間で共有している。看護師は1日に4回健康観察を行い、体調不良の早期発見に努めている。コロナ禍で休園に入る前に、保健衛生関係のレジュメを作成し全職員に配付し、新しい生活様式の配慮について意識を高め、玩具の消毒や環境整備に努めている。医療的ケアが必要な場合、医療機関や区の看護師と連携し適切なケアができるようにしている。ヒヤリハットを見直し今後の課題に取り組み、事故防止や感染予防に努めている。</p> <p>保護者に各種情報を発信し、家庭と連携して子どもたちの健康管理に努めている</p> <p>入園時に予防接種や感染症、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する情報や園での睡眠時のチェック方法を保護者に説明している。0歳児5分、1歳児10分、2歳児15分、3歳児以上は20分毎にプレスチェックを徹底し、安全な睡眠の確保に努めている。家庭でも仰向けで寝る習慣が身につくようパンフレットを配布し周知している。毎月発行される保健だよりでは年度当初には子どもの健康状態の把握や、夏の感染症など季節に応じた内容や、子どもの健康な生活に関する情報提供を行っている。感染症の発生時には掲示にて保護者に注意喚起を行っている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>保護者の個別な状況を受け止めながら配慮し、柔軟な対応に努めている</b>          保護者の就労状況など個々の状況を考慮し、延長保育など柔軟に対応している。また、子どもの健康面でも保護者の勤務状況を配慮し急なお迎えにならないように、体調がすぐれない時には早めに一報を入れて、子どもの様子を見るように対応している。4・5月の休園中も、家庭の状況を理解し電話相談や、週に1回家庭に連絡を入れて、困っていることはないか個別な対応を行い個々の状況に配慮した支援に努めている。利用者調査にイヤイヤ期の子どもの様子を見ながら助け舟をだしてくれる、安心して預けているなど園の対応への信頼が寄せられている。</p> <p><b>保護者会や保護者参加の行事で親交を深めたり、アンケートで保護者意見を把握している</b>          今年度については保護者参加の行事(親子触れ合い遊びの会・発表会等々)の他、保育参加(年1回)給食試食会(年1回)クラス懇談会(年2回)など実施が難しい状況にあり、情報を共有しながら方法について検討している。保護者参加の行事については、行事の様子を動画撮影し保護者会で上映の予定、日々の保育の様子を「にこにこブログ」やドキュメンテーションで紹介し保育の可視化を図っている。運営委員会や保護者会、個人面談、食事や保健に関するアンケートや日ごろの送迎時の会話、ご意見箱の設置など保護者の要望、意向の把握に努めている。</p> <p><b>園の活動への理解を深めて、子どもの育ちについて共通理解を深める取り組みをしている</b>          毎月の園だよりで、前月の園生活の様子としてトピックスを写真入りで紹介し、月の行事やお知らせ、クラスのエピソード集など掲載している。個別な園生活の様子を0～2歳児は連絡帳でやりとりし、3～5歳児はクラス活動の様子をマチコミメールで配信している。保護者会では各年齢の保育の方針や発達の特徴、見通しなど紹介し、進級や就学に向けた話題など、保護者の園の保育に対する理解と信頼につなげている。さらに保護者間の交流が深まるよう園の保育活動への参加について企画していきたいと園長は考えている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>多様な体験の場となるよう、地域資源の活用と交流の機会をもっている</b>          散歩マップを作成し園周囲の公園に出かけている。地域交流の場となっている公園や四季折々の自然と触れ合うことができる公園、未満児向けの小規模公園など、年齢や目的に合わせて出かけている。公園で固定遊具や広いグラウンド、起伏のある坂、自然との触れ合いなど体験の機会を広げている。区の美化強化月間では4歳児が軍手にゴミぶくろを持って、駅周辺のゴミ拾いを行い警察官に「ご苦労様」と言ってもらうなど、きれいになった気持ち良さを感じながら、地域の方々と交流する機会をもっている。</p> <p><b>園の専門性を活かした活動で、子育て家庭の支援につなげている</b>          地域の子育て家庭を対象とする「ふれあいひろば」を計画し、身体計測や健康に関する看護師の話の他、園体験、育児相談・交流の場の提供など企画をしている。今年度は10月から規模を縮小して実施している。また、絵本の読み聞かせとピアノ演奏会や、出前教室など園の行事に子育て家庭に声をかけるなど予定をしているが、状況を見て実施の予定。園の子どもたちにとっても、交流の機会となり、子どもたちの園生活の様子から、参加する入園希望の保護者にとっても園の様子が分かり、安心できるようにしている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	子育て家庭支援に専門性を活かして取り組み、地域に根差した保育園を目指している	
内容①	地域の子育て家庭支援に向けて、「ふれあいひろば」を行い、看護師・栄養士・保育士の専門性を活かした子育て相談や遊び場を提供する園庭開放、在園児との交流を通して保育活動を体験したり、遊びを紹介するなどの取り組みが行われている。設立間もない園ではあるが、地域に根差した保育園を目指して町会の情報や子育てニーズを把握し、園でできる支援や取り組みを積極的に進めていこうとしている。昨年のハローウィンでは子どもたちが地域の方々とふれあうなどのイベントもあり、保育活動を通じて地域の笑顔を増やしていこうと考えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル②	チームでの対応を行い、みんなで取り組むことを中心に、心身共の健康を目指している	
内容②	各種の研修に希望に応じて参加することができ、リモート研修には全員が参加している。チームビルディングでの対応を進め、園目標をマンダラチャートに整理し掲示して、職員間で意識して保育にあたるようにしている。また、職員の心身共の健康を目指し、ストレスチェックや健康観察などを行い、看護師を中心とするメンター制度も導入されている。園内研修で職員間での良いところ探しや保護者とのコミュニケーションを通じて感謝の気持ちを伝える配慮など、職員のモチベーションを維持しつつ向上できる場所は引き上げていく工夫が多くみられる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保育活動を可視化し様々に子どもの様子を伝えて、成長の姿を保護者と共有している。	
内容③	活動の様子や子どもの会話を捉えて写真で記録し、子どもの興味や保育のねらい、子どもの育ちと保育を可視化したドキュメンテーションで伝えている。コロナ渦で保護者の行事への参加や日常の子どもの様子を知る機会が減少していることから、掲示ではなく毎月各家庭に配付している。連絡帳や、マチコミメールを活用した「一日の様子」の配信、HPの「にこにこブログ」の回数も増やし様々に日常の様子を伝えている。保育の取り組みへの保護者の理解が深まり、子どもが園生活を楽しんでいる様子や成長の姿を共有し保護者の子育ての安心につなげている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	杉板の廊下など木をふんだんに使った落ち着いた園舎の環境を活かし、4歳児が木と触れ合い五感を刺激する木育活動に取り組んでいる
	内容	園の玄関はバギー置き場にも格子の引き戸があり、清潔感のある落ち着いた雰囲気心地よい。フローリングや腰壁など木に囲まれた日常生活を活かし、今年度、4歳児を対象に木育活動に取り組み、園長が木育インストラクターとして担任と協力し様々な活動を行っている。ヒノキの切り株の提供を受けて、木材を削っているうちに手のいい匂いに気付き、削った木片をたらいに入れて足浴して楽しんでいる。木の感触や香りを五感で感じコースターや自分の箸を作り、できあがった箸で「箸の持ち方の練習」につなげ、資源の大切さなど活動を通して伝えている。
2	タイトル	子どもの遊びの環境をテーマに各職員が特技を活かして、休園中に木工、手芸、工作などで玩具作りを取り組み、環境構成の充実を図っている
	内容	休園の折に保育室の環境設定を見直し、各年齢の発達に合わせた遊びの環境作りに全職員で取り組んでいる。それぞれの特技を活かし木材や家具を使ってままごとのキッチン台、人形の洋服やドーナツ、アイスクリームなど子どもたちが友だちと一緒に見立て遊びやごっこ遊びができる玩具、ランチバックや電車つなぎなど手や指先を使ってのボタンやチャック遊び、季節感のあるモビールなどを制作し、遊びの環境充実を図っている。棚の玩具も整理され子どもが取り出しやすいように置かれ、玩具の近くに遊びのスペースがありじっくり遊べるようにしている。
3	タイトル	区の「保育の質ガイドライン」「保育実践の振り返りシート」を活用し、職員が自己の振り返りを行い、保育の質の向上に取り組んでいる
	内容	4・5月の休園中に「足立区教育・保育の質ガイドライン」を全職員に配付し、園内研修で読み合わせし各自が自己の振り返りを行い、保育の在り方を見つめなおす機会を持っている。ドキュメンテーションの作成を通して保育者の観察力を高め、客観的に保育を振り返ることや、年4回「保育実践の振り返りシート」を活用して職員全員で保育の振り返りを行っている。子どもが自分の好きな遊びを選んで過ごす時間を大事にし、遊びの環境を充実させ園の保育理念「子どもが自らを成長させることができる環境」を目指し、保育の質の向上に取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	安心安全を最優先に危険予知トレーニングなどを取り入れ、事故の防止・抑止に活かしており、危機管理へのさらなる意識向上を期待したい
	内容	子どもたちの安心と安全を確保することを最優先に、危険予知トレーニングやヒヤリハットの情報を活かして要因別や場所などの情報を基に、職員間での気づきなどを反映して事故の防止・抑止につなげる対応を進めている。園内外のリスクに関する分析対応を進め、分かりやすく危険を認知してもらう工夫を検討し、職員及び保護者の安全への意識を高め、さらなる向上に活かされたい。また、事業継続計画を基に園での対策に置き換え、具体的な対処方法や担当、配慮すべき事項などを整理・共有し、非常時における的確な対応につなげられたい。
2	タイトル	職員間でのコミュニケーションを活かし保育にあたっており、非常勤職員との保育への取り組みに関する情報共有・理解の促進を検討されたい
	内容	園長を中心に職員間でのコミュニケーションを活かし、支障のない保育活動を目指して取り組んでいる。職員調査では非常勤職員に無回答が多くみられ、特に人材の育成や研修成果の共有、保護者や地域との連携の部分などが目立つ結果となっており、保育活動のプロセスや園運営のマネジメントに関わる部分での情報の共有が望まれる。対応していないという回答ではなく、取り組みの内容が理解できていないという判断と考えられるため、研修成果と保育内容のつながり、保護者との協働と連携、地域との関わりの部分を広く伝え理解を促すことも検討されたい。
3	タイトル	保育スキルの向上に向け様々な研修機会が提供されており、研修成果が具体的にどう展開されたか、どのように活かすかの検討も望まれる
	内容	職員間の情報共有に向け各種の会議を持ち、保育スキルの向上に向けて様々な研修機会が提供されている。研修後には報告書を作成し、誰でも閲覧ができるよう配慮されている。研修成果を活かして内部研修を実施するなど、保育活動に反映されている。研修成果が具体的に保育のどの部分に活かされたか、子どもや保護者との対応にどのように活かされたかを職員間で共有することで、成果の認識を高め、園での役割や実践での位置づけを明確にし、保育への取り組みでどのように具体的に活かし実践につなげていくかなど、効果的な方法の共有につなげられたい。